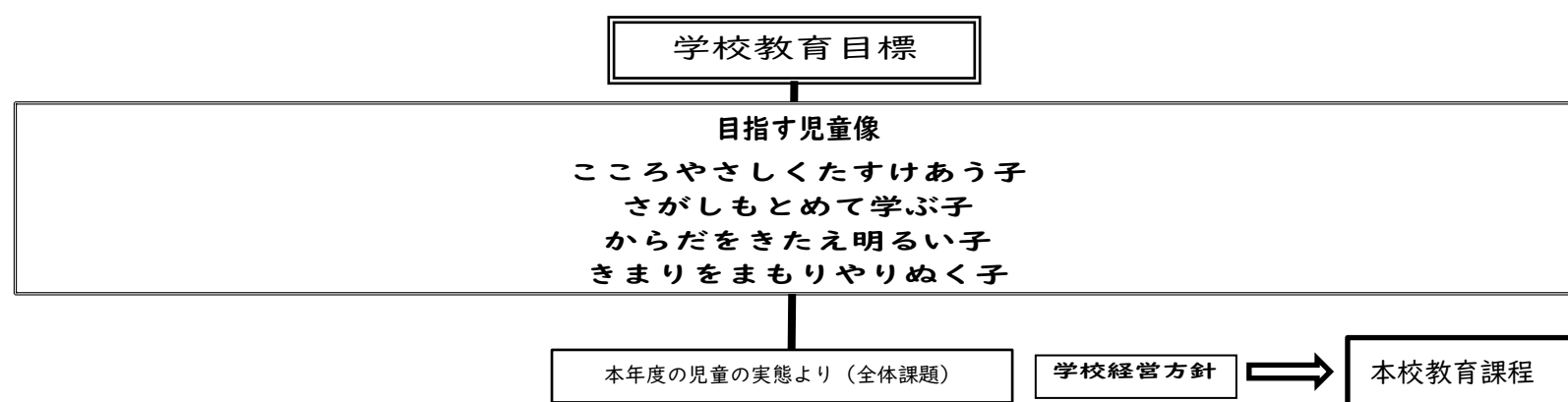


令和8年度 長崎市立小桝小学校 学力向上全体計画



※学力調査の結果を踏まえ、基礎基本の定着を図るとともに、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境整備と多角的な学習支援を行い、以下のとおり学力向上に向けた具体的方策を実施する。

## ①2学期からの具体的方策

### 【国語編】

|    |                                                                                                                                                                                                                            |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1年 | ・学習した語彙を言葉の宝箱として掲示し、考えや思いを伝えるときに使えるようにする。                                                                                                                                                                                  |
| 2年 | ・漢字の広場や、週末の日記の宿題の中で、文章を書く練習をさせる。<br>(日記では、様子を表す言葉・句読点・カギ「」・ページなどの量の指定など、条件をつける。)                                                                                                                                           |
| 3年 | ・紹介文、報告文、感想文などの様々なパターンの書く活動を計画的かつ意図的に仕組む。<br>(初め・中・終わりを意識して書く。)                                                                                                                                                            |
| 4年 | ・週1回程度、宿題として「書く」内容を出題する。「テーマ作文」「日記」「自主学習（調べたことをもとに、最後に自分の考えや考察を書くように統一する）」など、子どもたちが飽きることなく楽しみながら取り組むことができるようにする。<br>・物語や説明文の学習の際には、司書教諭と連携し、関連した本を学年で借りて子どもたちが手に取りやすいようにする。それによって、その時に獲得した読みの力や作品への関心を生かし、読書への興味が強まるようにする。 |
| 5年 | ・読む単元においてある一文がどんな場面や様子を表しているのかを確認する時間をとる。(簡単な言葉や絵などを使って)<br>・読むことに抵抗のある児童には範囲を焦点化してスモールステップで意欲を持続させる。                                                                                                                      |
| 6年 | ・「本や資料から『根拠となる事実』を正しく引用し、自分の考え（経験・理由）と明確に区別して書く力」を育てる。そのために、魅力的な言語活動（ビブリオバトル、行ってみたい！グランプリ、私の推しを紹介します等）を仕組むことで子供たちが主体的に取り組むことができるようにする。                                                                                     |

## 【算数編】

|     |                                                                                                                                           |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 年 | ・文章題のキーワードに着目させ、ラインを引きながら立式させる。(分かることは○、聞かれていることは波線)                                                                                      |
| 2 年 | ・数学的な考え方の説明記述において、説明の型を提示し、説明を書かせたり、友達に伝えたりする時間を適宜設定する。                                                                                   |
| 3 年 | ・自分の考えを、話したり書いたりして、他者に説明する場面を設定する。(図や式、文章などで表現する。)                                                                                        |
| 4 年 | ・式と言葉を対応させてノートに書く。自分が書いた式と説明の文章にちがいがいないか確認をさせる。                                                                                           |
| 5 年 | ・式の意味をとらえる時間や理解できているか確認する時間をつくる。<br>・適宜復習の時間をとって定着を図る。                                                                                    |
| 6 年 | ・『図(数直線やテープ図、表)』を根拠にして、自分の考え(わけ・求め方)を友達に説明する力を育成する。<br>そのために、児童が自ら選択して表した図(数直線やテープ図等)を指し示しながら、数量関係や立式の根拠を「～だから、…になる」という言葉の型を用いて説明するようにする。 |

## ②学習支援・環境づくり

### ● 筆箱の中身・机上準備の統一

- ・全学年で学習用具の規律をそろえ、学習開始時のスムーズな立ち上がりを図る。
- ・筆箱の標準仕様：鉛筆 5～6 本、消しゴム 1 個、赤ペン、青ペン、黒サインペン、定規(高学年は蛍光ペン 1 本)。
- ・机上標準セット：授業開始時、えんぴつ・消しゴム・定規・赤青ペンを筆箱から出して配置。

### ● 「かつお」行動による準備習慣の定着

- ・5 分休みにおける「かつお」(か=かたづけ、つ=つぎのじゅんぴ、お=お茶のみ・トイレ)を徹底し、1 分前着席を習慣化する。

### ● 学習規律・行動様式の全校共有

- ・集団生活での安心感を高める共通ルールを実践する。
- ・「声のもののさし」の活用：場面に応じた声の大きさを意識化。
- ・傾聴と発言の姿勢：「聞き方名人・話し方名人」の基本(相手を見てうなずく、響く声で話す等)と、学年に応じた礼儀正しい挨拶を実践。

## ③教室環境のユニバーサルデザイン化

### ● 前面黑板周りの「視覚的刺激」の低減

- ・授業中の集中力を維持するため、前面黑板周辺の不必要な掲示物を徹底的に撤去・精選する。
- ・黑板上部はすっきりと整理し、「今日のめあて」や「時間割」は黑板左右の決まった位置に統一配置。
- ・掲示物の大きさ・デザイン・縦横の配置位置や配色を揃え、視覚的な雑多感を抑える。

### ● 板書の構造化(めあてとまとめの視覚的強調)

- ・本時の学びのゴールと成果を一目で把握できるよう、全校で板書ルールを統一する。
- ・「めあて」は青色の方形ラインで挟み、「まとめ」は赤色の方形ラインで囲むルールを徹底し、授業構造を明確化する。

### ● 側面・背面壁面の構造化と視覚的サポート

- ・単元の「学習の軌跡」、話し合い活動で活用する「発表の話型」、作業の「手順カード」、児童の成長が実感できる「作品・成果物」、視覚化した「学級目標」を掲示する。